

## 海域の概要

本湾は、南三陸の中心部に位置し、湾内には荒島や椿島などの大小の島々が散在しています。湾内では古くからノリ・カキ・ワカメ・ホヤ等の養殖が行われています。



## Specification

### 諸元

湾口幅：6.6 km

面積：46.8 km<sup>2</sup>

湾内最大水深：54 m

湾口最大水深：54 m

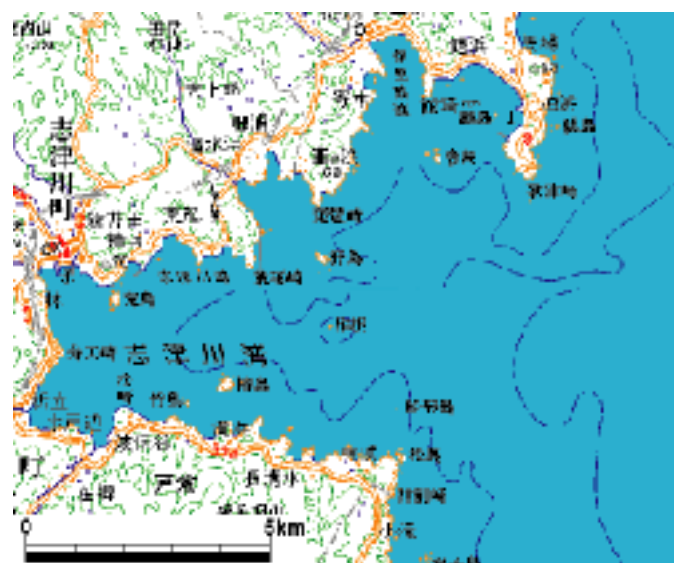
閉鎖度指標：1.04

備考：環境基準類型指定水域

## Location

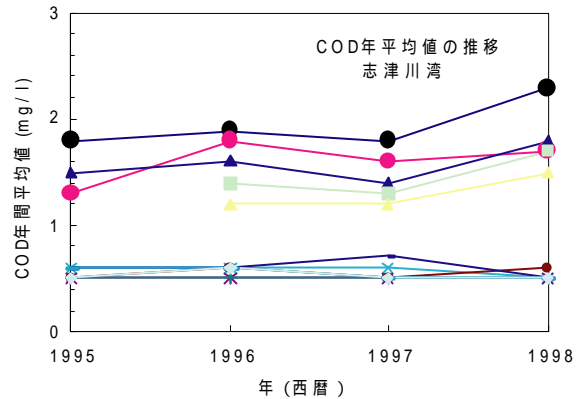
### 範囲または位置

宮城県本吉郡歌津町歌津崎と同郡志津川町寺濱三角点(北緯 38 度 38 分 0 秒 東経 141 度 31 分 51 秒)を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



## 環境

水質は比較的良好な状態を維持しています。  
COD年平均値をみると、漁港内を除き2mg/l以下で推移しています。  
底質は湾の北部は砂質、中央部は泥質、湾の南部は岩となっています。



## 自然

志津川湾はリアス式海岸で有名な三陸海岸南部の中心にあり、南三陸金山国定公園に指定され、湾奥北岸の袖浜海水浴場は「日本の水浴場 88選」に選定されています。北・西・南の三方を山に囲まれ、北上山系から発した八幡川、水尻川、新井田川、折立川、水戸辺川が流れ込んでいます。

湾内の岸添いや島嶼周辺の岩礁域には、アラメ・カジメ、コンブ、ホンダワラ等の藻場が広がる他、湾奥部を中心にアマモ場も分布し、湾奥南部では、潮干狩りも行われます。

志津川港から約 4 km の海上には椿島が浮かび、島内には約 1 500 本のタブノキをはじめとした国指定天然記念物「暖地性植物群落」があります。

湾口の南端の神割崎は、2 つに割れた奇岩の間から太平洋の怒濤が流れ込む風光明媚な南三陸の代表的な名所として知られています。



神割崎

## 文化歴史

志津川は江戸時代には仙台藩養蚕の発祥地として栄え、昭和 30 年には 1 町 2 村が合併し、水産・商工の町として発展し続け、人口も約 2 0 000 人に達しましたが、現在は約 1 4 000 人です。

湾岸には、行山流八鹿踊発祥の地、天女伝説、荒沢神社（太郎坊杉）、大雄寺などの史跡等があります。

志津川町はチリ地震により、甚大な被害を受けましたが、被災国であるチリ共和国から友好のシンボルとしてモアイ像が送られました。



モアイ像

## 産業

志津川湾は、内湾性漁場と外洋性漁場の 2 つに区別でき、内湾性漁場においては古くからノリ、カキ、ワカメ、ホヤ等の養殖が行われ、技術進歩により外海におけるワカメ、ホタテの養殖も盛んに行われています。また、世界に先駆けて始まったギンザケ養殖も全盛期には 35 億円の水揚げを得ました。そのほか、シロザケ、ヒラメ、クロソイ、アワビ等の資源管理型漁業が盛んです。

南三陸の観光拠点ともなっており、湾内の荒島、椿島、海水浴場として整備されている袖浜など、海洋性の観光資源も充実しています。